

神戸昇天教会月報

〒652-0015 神戸市兵庫区下祇園町39番7号 神戸昇天教会

牧師 小南 晃 電話 (078) 361-4490

FAX (078) 361-4539

http://nssk-kobeshoten.org/ 振替口座 01110-2-10517

今年の標語

「来てみませんか？」と誘える教会を目指そう。

努力目標

- ◎主日礼拝を大切に守ろう。
- ◎他教会の働きを知ろう。
- ◎教会ホームページの充実と活用。
- ◎地域との交流促進。

聖語 御言葉を宣べ伝えなさい。折りが良くても悪くても励みなさい。(Ⅱテモテ 4:2)

逝去者記念月にあたって

～天国はだれのものか～

心の貧しい人々は、幸いである、天の国はその人たちのものである。
(マタイ5:3)

司祭 ミカエル 小南 晃

11月1日は諸聖徒日です。この諸聖徒日の起源については、初代教会時代、名の知られない多くの殉教者たち、即ち諸々の聖徒たちの記念日が各地で日を異にしながらか3世紀頃から守られていました。それが8世紀にローマの聖ペテロ大聖堂内に諸聖徒礼拝堂が建てられ、その記念礼拝が11月1日に捧げられて以降、この日が諸聖徒日として守られるようになりました。

やがて諸聖徒日の翌日、11月2日にすべての信徒逝去者が覚えられるようになり、そして11月が教会の逝去者記念月となっていくと言われていました。

当教会では11月の第一日曜日に秋季の歴代逝去者記念礼拝を行っていますが、今年は丁度、諸聖徒日に当ることになります。

八福の教え

諸聖徒日に読まれる福音書のひとつは、冒頭で引用したマタイによる福音書5章3節以下です。後に続く節も含めて引用しますと、「心の貧しい人々は、幸いである、天の国はその人たちのものである。悲しむ人々は、幸いである、そ

の人たちは慰められる。

柔和な人々は、幸いである、その人たちは地を受け継ぐ。

義に飢え渴く人々は、幸いである、その人たちは満たされる。

憐れみ深い人々は、幸いである、その人たちは憐れみを受ける。

心の清い人々は、幸いである、その人たちは神を見る。

平和を実現する人々は、幸いである、その人たちは神の子と呼ばれる。

義のために迫害される人々は、幸いである、天の国はその人たちのものである。」

ここには「幸いである」とされる八通りの人々が語られていることから「八福の教え」とも呼ばれている箇所です。

諸聖徒日に読まれる福音書として選ばれているのは、特にその8番目の「義のために迫害されてきた人たちは、幸いである、天国は彼らのものである(5:10)」に因んででしょう。信仰を守り、神の義、正しさに従って生きようとして迫害され、さらに殉教した無名の人々に、天の国はその人たちのものだ、主ご自身が約束されていることを覚えて選ばれているのではないのでしょうか。

天の国はだれのもの

しかしここには八通りの幸いが語られていますが、八通りの別々の生き方が語られているのではなく、「天の国はその人たちのものである」と約束されている、神様の前での人間の一つの在り様が語られており、それを八つの視点から語っていると言えます。

謙虚に、悲しみに耐え、柔和で、正義を望み、憐れみ深く、心清く、平和を求めて迫害をも甘受する生き方、この「八福の教え」をそのままに生きた方とは、何よりも主イエス・キリストご自身でした。

そしてその主イエス・キリストのみ跡に従う生き方のその先に天の国が約束されているのです。

逝去者記念月にあたって

キリスト教の逝去者記念は、まずは天に召された方々の主にある光明と平安を祈ることにあります。歴代の当教会関係逝去者を覚え、またことに先月、天に召されたピリポ岡田昭三兄、サムエル笹部 隆兄を覚えて、共に祈りを献げたいと思います。

同時に私たちはこの時に、私たちを見守る天の全会衆と主イエス・キリストのみ前にあって、私たち自身が信仰の馳せ場を生きる決意を新たにします。

この時にあたって、主から「天の国はあなたがたのものである」と語りかけられる生き方へと、さらに歩みを進めて参りましょう。

定例集会

日 午前7時 早朝聖餐式
" 9時15分 教会学校
" 10時30分 聖餐式・説教
午後6時 夕の礼拝

火 午前10時30分 聖書研究会
土 午前10時30分 教会掃除
(ご奉仕をお願いします)